

教育委員会に関する事務の管理
及び執行の状況の点検及び評価

報 告 書

実施日：令和3年2月19日

新庄市教育委員会は、新庄市教育行政有識者委員会の意見を参考に、教育委員会に関する令和元年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行いました。

点検・評価の結果、教育関連の事務事業については、概ね順調に進んでいるとの評価に至りました。

点検・評価した事務事業と教育行政有識者委員会の審議概要は、次ページ以降に記載しております。

新庄市教育委員会

令和元年度新庄市教育委員会 事務事業の評価説明資料

1. 新庄市まちづくり総合計画の事務事業評価を活用しました。
2. 教育行政有識者委員会の審議概要を添付しています。

新庄市教育委員会

【参考資料】

令和2年度新庄市教育行政有識者委員会審議概要

教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うに当たって、新庄市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に基づき、新庄市教育行政有識者委員会の意見を吟味し、その活用を図りました。

ここに掲載した資料は、教育委員会の事務事業のうちから4事業を抽出し、令和3年1月18日、新庄市教育行政有識者委員会において事業の評価のために行った審議内容をまとめたもので、新庄市教育委員会はこれを参考に点検及び評価を行いました。

令和2年度 新庄市教育行政有識者委員会 審議概要

審議内容：『令和元年度教育委員会事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価』

開催日時	令和3年1月18日(月) 午後1時30分～午後3時15分
開催場所	新庄市役所301・302会議室
出席委員	阿部彰委員長、今田雄三副委員長、小野広美委員、田中雅樹委員 森千賀子委員、矢口明美委員 計6名出席
欠席委員	長沼建委員
教育委員会事務局 出席者 (事業説明者)	高野博教育長、武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、 渡辺政紀社会教育課長
諮問事項	『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第26条の規定に基づく、 令和元年度教育委員会事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価 下記4事業を抽出し、点検及び評価の対象とした。 1. 情報教育推進事業 (教育総務課) 2. 学校・家庭・地域の連携協働推進事業 (学校教育課) 3. 国際理解教育・外国語教育推進事業 (学校教育課) 4. 高校生ボランティア体験事業 (社会教育課)

【審議概要】

1. 情報教育推進事業	
《質疑応答》	
質問及び意見	教育委員会事務局の回答等
<p>小学校や中学校の子ども達はすぐに覚えるという意味では、新しく出る機種によっては、ますます使いやすさと、情報の豊かさがある。この情報社会においては充実していくべきと思うので続けてほしい。</p>	
<p>今後は各教室にWi-Fiが行き届く中で、全ての授業が行われるという環境になっていくということによろしいか。</p>	<p>今現在も普通教室ではWi-Fiが使えますが、10年位前のレベルのもので、インターネット環境の高速化に合わせたLANケーブルのバージョンアップを進めております。</p> <p>LANケーブルの工事は、3月中に終わる予定です。</p>
<p>LANケーブルの更新は何年位を目途にしていますか。</p>	
<p>また学校に来られないようになった時の連絡も、タブレットがあればできるようになるでしょう。一番心配なのは、そのタブレットを操る先生の技量です。子どもの方が進んでしまうことが心配なところですが、体育館にもWi-Fiが入るとのことなので、タブレットを使って、先生方がダンスなどの授業に取り入れられるようになってくるのかなと思うと、これからは楽しみです。</p>	
<p>タブレットは自宅に持って帰れますか。</p>	<p>タブレットは学校の教材備品ですので、学校の保管庫に置き、基本的には家に持って帰らず、学校に来たら自分のものを出して使うことになります。ただ、長期に学校休業をした場合、インターネットを使った授業も想定しており、臨時的に家に持っていくというスタンスになっていくと考えています。</p>
<p>Wi-Fi機能がない家庭では、活用できないという問題が出てくると思います。家庭でWi-Fi機能を整えていただくという案内やお知らせをして、万が一の時には繋がるように動いた方がいいと感じました。家で使えると、コロナで閉鎖になった時に、子どもたちの授業も遅れずにスムーズに行え、全員が活用できる環境になるのが良いと思いました。</p>	<p>ポケットWi-Fiであるとか、電源につなぐだけのWi-Fiの機械を準備しておくという手はあると思います。それを準備しておくとする、いつ使うかわからないものに年間500～600万円の予算を毎年使うということもあり、今の状況ではかなり難しいということです。今の状況で対応できるとすれば、ネット環境がない家庭のお子さんは、密にならないような形で学校に来ていただいて、学校のWi-Fi環境を活用して授業を受けるといった方法も考えられます。</p>

<p>教科書の量が多すぎて子どもたちに大変苦役を強いているのではないかなと思って います。タブレットがあればそれに教科書を 全部入れて登校できる。将来は身軽に登校で きればいいと思いました。</p>	<p>基本的にはパソコン・タブレットは個人のもので はないということで、今のところは難しいと考 えています。</p>
<p>《方向性》</p>	
<p>・ これからの時代に情報教育は必要であり、教職員のスキルアップといった質の向上とあわせて事業を拡大していく。</p>	

2. 学校・家庭・地域の連携協働推進事業	
《質疑応答》	
質問及び意見	教育委員会事務局の回答等
<p>専門の人が並べ方や見せ方を工夫したりすることによって、子どもたちが本好きになるのだなということを実感しました。地域の方にも開放していて、コミュニケーションも生まれてくる。とても大切な事業だと思いました。学校司書の方には期待が大きいです。</p>	
<p>コロナ禍で読み聞かせが出来ない状況があると聞きましたが来年はどうなりますか。</p> <p>タブレットを使って、読み聞かせのサークルの方にお願ひし、読み聞かせの動画を撮って作っていただいて図書室などで流すとか、新しいやり方での読み聞かせもスタートできないかなと思っています。</p>	<p>すべての学校ではありませんが、一部読み聞かせを再開していただいています。各学校の規模や環境が違うものですから、今はご意見を参考にして、そのやり方については考えていきたいと思っています。出来れば密を回避した形で、地域の方の声を通した読み聞かせが実現できればと思います。</p>
<p>学校司書が1名から2名になることで充実してきたということがわかりますが、地域との連携はどのような計画ですか。</p>	<p>地域協働活動は、学校の総合学習や学年行事など、PTA や地域の方々から関わっていただきながら学校づくりをしていくことです。地域の方々も町内のことを話し合ったりすることができる活動を少しずつ進めていこうとしているところです。学校の子どもたちを育むと同時に、地域のコミュニティも考える場を設けるということが社会教育としては必要です。地域における人づくりの場の一つとして、子どもたちと関わることによって、自分たちで地域を作っていくような企画を進めています。</p> <p>また、萩野学園には学校運営本部があり、4月からは明倫学園でもスタートしていきますが、その中で、ボランティアのような支える団体を全部統合して、教育活動がある時はこの団体をお願いするという情報を整理しながらコーディネートすることも必要と考えています。組織的な対応についてはまだまだそれぞれ点になっているので、その点をつなぐコーディネーターが大事と考えています。今はまだ事業そのものは、図書という部分的になっているわけですが、体系的に行えればと思っています。</p>

<p>図書館の中でタブレットを見た時、どこに何があるのかということもわかるし、読み聞かせの動画配信であったり、北辰小学校のイベントなど集約してリンクさせるシステムを構築していくと、いろいろなものに繋がっていくのではないのかなと思いますが、今後の展望として考えていけるかをお聞かせいただきたい。</p>	<p>学校図書館の機能の中に学習情報センターとしての機能があります。調べ活動を図書で行うという環境で、そこにタブレットを持っていく。ある子は百科辞典で調べたり、ある子は図書で調べ活動をしていたり、横ではネット環境で調べたり。図書室とコンピュータ教室は機能がほとんど重なっています。</p> <p>図書室との連携については、学校図書館にはパソコンが一台あり、その学校の図書室にある本の一元管理ができています。これにインターネットを通じて、他の学校の図書室と市立図書館にどんな本があるのかがその一台で全て調べられるという状況になっておりますので、様々なものを、紐付けできる可能性もあると思います。</p>
<p>《方向性》</p>	
<p>・学校に司書が配置されていると効果が大きいと評価できる。コーディネートを上手にしていくと可能性の広がる事業だと思われるので、課題を整理したうえで、充実させていく。</p>	

3. 国際理解教育・外国語教育推進事業	
《質疑応答》	
質問及び意見	教育委員会事務局の回答等
ALT 以外に学校の先生方も英語を教えることがあると思いますが、その時の対応がスムーズに行われているのかということと、ALTの方々が4人で各学校を回って十二分のできるのかと疑問がありますがいかがでしょうか。	筆記中心の授業や読解中心の授業の形態もありますので、すべての授業に ALT が必要かといわれますとそうでもないというのが実情です。新庄市では英語の専科ということで5・6年生の英語をすべて受け持つ専科教員も複数おります。現状としてはこれ以上人が増えてもうまく活用することは難しいので、どうしても足りないという状況の学校が出てきた時に、増やすことを考えております。現状として、今の人数で十分活用されていると考えています。
新庄市の児童生徒が英語に関して興味が薄いというのは、日本人以外と接する機会があまりないので興味が無いのではないかと。英語だけじゃなくて、世界にはいろいろな人がいるということのを小さいうちから、実際に触れることのできる環境があれば、興味を持ってもっとしゃべってみたいと思うのではないかと思います。	学校で英語が教科になったことや、総合的な学習の時間ではいろいろな文化を学ぶことがあります。外国の文化とか英語に関する関心というの、環境的なものもありますし、首都圏と比べると、どうしても関心が低いという実態もあります。いろいろな国の方とコミュニケーションを取れるような楽しい授業や興味関心がわく授業を行っていかねばと思います。
ALTの方は皆さんアメリカの方ですか。 同じ英語でも訛りがあって、興味とか面白さからまた英語を学べるのかなと思いました。もし機会があれば増やして、いろいろな英語の先生がいるといいかなと思いました。	今いる ALT は全員アメリカの方です。 ALT の出身国によっては、様々な文化を学べると思っています。
ALTの方々は市内のイベントにもいらっしゃって、小さい子から高校生くらいの子に気軽に声をかけています。小さいうちから馴染んでいると違うのではないか思ったところです。市内のいろいろなところで ALT の方々を見られるというのも、大人としても地域としても良いのかなと思って毎回見ているところです。	
《方向性》	
・ 地域で異文化の環境を見られることもあり、現在の環境は恵まれている。今後も継続して事業を進めていく。	

4. 高校生ボランティア体験事業	
《質疑応答》	
質問及び意見	教育委員会事務局の回答等
<p>災害時にボランティア活動するというのは耳にしますが、今日提案されているものはどういう場面で行われているのか教えていただきたい。</p>	<p>イベントごとや市の事業を行うときのサポート、お手伝い等をしていただくような形になります。年度の当初に各中学校や高校にチラシを配布しています。</p> <p>この事業については、高校生にボランティアをさせることが目的なのではなく、高校生がボランティアを体験することによって何かを学ぶ、そして今後の自分の人生にどうやって活かしていけるかというところを目的としていますので、その活動自体は自分たちで考える「体験学習」という意味合いになると思います。</p>
<p>以前は、青年センターに行けば、誰かが話し相手になってくれるという場所がありましたが、今はなくなっていますし、常に話を聞ってくれる大人がいない状態で、集まる場所がない。予算も少ないので、予算がもう少しあるとやりやすいのかなと思いました。</p>	
<p>サークルとして個々に入るよりも、単発で参加できる機会を増やした方が、学ぶ機会を得られる子が増えるし、新庄市の良さや働いている方たちの良さも伝えていただくともっと幅広く活動ができるかなと思うので、その辺りを活かしていただきたいと思います。</p>	
<p>私も「しずく」の皆さんと kitokito マルシェと一緒にボランティアさせていただいていますが、いつの頃からか中学生ボランティアの「しずくジュニア」の方も増えてきました。気が付くとジュニアの方々が「しずく」になって、しずくを卒業された方は、「第3日曜日だから来てみた」とか、どんどん繋がっていくと、ふるさとを思うという違う視点で見ることができるのではないか。サークルの中にいるということも大事だと思いました。</p>	
《方向性》	
<p>・小・中学生から大学生、青年期に向けて今後ますます先に伸びていくという期待がある。限られた予算の中で素晴らしいことをやっていると思うし、内容面をもう少しこの資料の中に盛り込むとますます評価が高まるものとなる。今後も継続して事業を進めていく。</p>	